

在ベトナム日本国大使館

Embassy of Japan in Vietnam

[トップページ](#) | [大使館案内](#) | [日本とベトナムの関係](#) | [日本の対ベトナム援助（ODA）](#) | [領事・医療事情](#) | [広報文化センター](#) | [ベトナムの社会・経済事情](#) | [重要外交政策](#) | [日本情報](#) | [リンク](#)

「邦人医療関連手記」の掲載

平成17年7月1日
在ベトナム日本国大使館

当地駐在員として滞在されている邦人の方が、4月下旬に心筋梗塞を発症し、当地で手術を受けられ、無事一命を取りとめるという事案がありました。同邦人は、この度、その時の体験を手記として取りまとめ、当地日本商工会に寄稿されております。

この手記では、発症から手術までの状況や、発症の「前兆」などが詳細に記されておりますが、在留邦人や邦人旅行者の皆様の御参考に資するため、寄稿者の御快諾を得まして、当館ホームページでも御紹介させていただくこととなりました。

心筋梗塞で手術・入院、顛末記

4月25日朝、突然の心臓発作に襲われました。勿論私にとって夢にもしていない事で驚きました。私の経験が皆様のご参考になればと思い、下記致します。両親が共に高血圧で、私も普段は高血圧症（140-90程度）でしたが、降圧剤は未だ服用していませんでした。元々健康体と盲信していましたので、ハノイに来てから3年間検診も受けずに済ませていました。恐らく血圧は普段150以上-100前後であったと思います。

ハノイに赴任し暫くしてから（03年2月～）毎朝、我流の健康法（10分間のストレッチ、15分間のアパート階段のぼり：1階から7階を6往復）を日本に一時帰国する益、正月以外は毎日実行していました。後日先生から、間違った健康法とのご指摘を受けました。

4月25日（月）朝も、6時20分頃から運動し、その後、水風呂を浴び7時15分にアパート1階で会社の車を待っていました。（丁度その時間JR西日本が事故を起こしていました）。

当日は、アパートの部屋を出た途端、むっとする暑さを廊下やエレベーターの中で普段以上に感じ、汗が異常に出てハンカチが必要な程でした。アパート1階に降りましたが会社の車が3-4分ほど遅れ、アパートのソファで待っている間も異常に暑く感じて汗が吹き出し、その後、息苦しくなり、動悸がしてきました。普段したことのない脈を計りましたが、脈が跳んでいる（不整脈？）ようでした。

何か、気持が悪く心臓が圧迫感を受けるような感じでしたので、到着した運転手に即診療所（SOSインターナショナル）で検査受けたい旨伝えました。車の中でも冷や汗が異常に出て、益々息苦しくなり両手が痛いほど痺れて来ました。手を触ると冷たいので、これは血が巡っていないと思いました。朝の交通渋滞に巻き込まれた事もあり、運転手からSOS診療所に行くより近いフレンチホスピタルに向かう事を告げられましたが、小生は何処でも良いから近いところに行って欲しいと応えました。

その際、意識は正常でしたが、未だ心筋梗塞とは思いませんでした。幸い、病院には7時35分頃到着し、即緊急病棟に肩を支えられ向いました。ベッドに横になりましたが5分間ほど苦しい症状（呼吸困難、心臓の圧迫感、腕の痛い痺れ）は続きました。

その間、看護婦が心電図、血圧、脈拍を検査しました。暫くしたら、汗も引き、呼吸も楽になり危機は脱したと自分では思っていました。心電図で心筋梗塞と診断され（後で聞きました）、その後のエコー（超音波）検査で心臓冠動脈（3本）のうち1本が詰まっていると診断が下され、即手術室に運ばれました。

カテーテル検査⇒手術（バルーン⇒ステント装着）が実施されましたが手術の時間は約40分程度であったと思います。カテーテルは太ももの付け根の動脈から注入します。この止血が難しく、手術の前後5分程その付け根の動脈を強く抑え、止血処置をしました。

手術後、11時半にはICUに移されました。ICUに移り、直ぐに身から離さなかった携帯で自宅に電話をしましたが、手術中と聞いていた家内は、私が驚くほど元気に話すので信じられないようでした。12時には軽い昼食としてスープが出ました。止血処置の為、一晩右足を固定していましたが翌朝には歩けるようになりシャワーを浴びたり自由にICU内を徘徊できるまでになりました。ICUに2泊し、その後一般病棟に移り、5月2日に退院しました。25日の入院騒ぎは服部大使にも連絡され、林医務官が直ぐに駆けつけてくださいました。

難しい医学英語を説明いただき、まさに地獄で仏とはこの事でした。病状が理解できたので、手術同意書に躊躇なくサインしました。この手術には林先生にアテンドしていただきましたが、先生の話ではベトナムでこのような高度医療が出来るとは思ってもよらなかったとの事です。

詰まっている血管の長さが2センチ以上なので、バイパス手術になるかと考えていたところ、カテーテルで処置出来たので驚いたそうです。因みに、カテーテルを血管に通している間は麻酔もかけず会話をしながらの手術でした。主治医の話では、高血圧から来る動脈硬化（冠状動脈の一本が2.8センチほど90%詰まっていた）が進行していて、これにより朝の過激な運動、水風呂が心臓発作の引き金となったとの事です。

5月10日一時帰国し、12日、小船井名誉院長（榊原記念病院）に診察して戴きましたが、開口一番「ベトナムで心臓カテーテル手術が出来たとは驚きだ。しかも、装着しているステントはサイファーステントという代物で米国では2年前に認可されたが、未だ日本では厚生省の認可待ちの溶剤抽出タイプ（DES）を使っている」との事でした。

更に「抗血小板凝固剤も日本では使用されていない新薬。病院のレベルの高さには驚いた。」などと言われました。

予兆を聞かれましたが、朝の運動で階段のぼりをしている際、発作を起こす一ヶ月前頃から、登りきった時に心臓がツーンとするような痛みを感じていました。それも、階段を降り始め10秒ほどすると治まるので気に留めていませんでした。小船井先生は「それが予兆で、これが分かれば検査し余裕をもって手術出来たが、健康な人に限って予兆を無視している」との事でした。

幸い、ハノイに赴任してから毎年、海外傷害保険を掛けていて今回の全ての治療は保険で

カバーされました（8日間の手術、入院費用で14,680米ドル）。

以上皆様、他山の石としていただければ幸いです。（風間賢雄記す）

[医療のページへ戻る](#)

[ホームへ](#)

(c) Embassy of Japan in Vietnam

27 Lieu Giai, Ba Dinh, Hanoi, Vietnam Tel: +84-4-846-3000